



小さくしまの未来を つくるうニュース vol.2

福島の皆さまに、未来をつくる取組をご紹介します。

～ 『東北復興月間』のイベントが各地で行われました～

「これまでの支援への感謝と、課題の解決を」



高木復興大臣の冒頭挨拶

6月6日（月）に東京において、復興庁主催で東日本大震災5周年復興フォーラムが開催されました。冒頭、高木毅復興大臣は、「被災地が地方創生のモデルとなるよう復興の課題を解決していく」と挨拶。

3県知事の鼎談では、震災から5年を振り返り、これまでの苦労や支援への感謝、被災地の風評被害や風化の懸念も訴え、支援の継続を呼びかけました。

内堀雅雄福島県知事は、その中でこれまでの震災復興への支援に感謝した上で「県土の7%が（原発事故による）避難区域で、住民は当たり前前の暮らしができない。これをゼロにすることが一番大事。」、また「単に避難指示を解除するだけでなく、元々住んでいた人が本当の意味で安心して当たり前前の暮らしを取り戻すことに未来がかかっている」と述べ、住民の生活本位の復興を目指す考えを強調しました。

また、震災救援に取り組んだ国を代表し、来賓として挨拶を行なったケネディ駐日米大使は、「まだ多くの方が苦しんでいる。一方、クリーンなエネルギー開発など画期的な研究も進んでいる。」と参加者に語りかけました。引き続き、東北大災害科学国際研究所の今村文彦所長ら有識者らが参加した討論会では、震災で得られた教訓などについて、意見が交わされました。

「これまでの経験を活かし」

当日はこのほか、福島県をはじめ、各県で取組まれている新しい東北に向けた動きを分科会形式で紹介。参加者との意見交換やさまざまな情報発信が各ブースにおいて行われました。

また、安倍晋三総理もこの分科会を訪れ、宮城県多賀城高校の生徒の皆さんと交流した後、出展企業のブースを視察するとともに、女性起業家の方々との座談会を行いました。



会場内出展ブースの視察

各ブースでは、福島県の工場で組み立てられた介護などの力仕事を補助する「マッスルスーツ」を試着。震災発生後に起業した女性の皆さんと懇談し、激励しました。今春から災害科学科が新設された宮城県多賀城高校の皆さんに対しては、「皆さんの経験をいろんな場所で活かしてほしい」と呼びかけを行いました。視察後総理は、「被災前の東北とは違った新しい東北を創っていく。これからも力強く支援していきたい。」と語りました。



「新しい東北」作文コンテスト優秀作品表彰式

「それぞれができる支援を」

6月11日(土)～28日(火)の期間、東京都のアーツ千代田3331では、「交流ミーティングin東京～『新しい東北』を創る人々～」が開催されました。

6月12日(日)には「若者DAY」と題して、全国の小中高校生を対象とした「新しい東北」作文コンテストの表彰式や、被災地の高校生等による復興の取組発表、全国から集った大学生によるワークショップなどさまざまなイベントが開催され、復興への「前向きな取組」を通じて、復興の状況が伝えられました。

当日のイベントには、高木宏寿復興大臣政務官、小泉進次郎衆議院議員、宮田亮平文化庁長官らが子供たちと交流。さらにサプライズゲストで、AKB48のチーム8のメンバーらが参加し、「掌が語ること」「365日の紙飛行機」など4曲を参加者の前で披露し交流を深めました。

「復興はライフワーク」と語る小泉進次郎衆議院議員は、小中高生の「新しい東北」がテーマの作文を読んで、受賞者全員に声をかけました。そして「政治家は言葉を使う仕事なのだが、子供の言葉の力にはかなわない」とコメント。宮田亮平文化庁長官は「言葉の力が復興の原動力になる。言葉の復興も大切」と言葉の力で、東北の状況を全世界に情報発信して欲しいと呼びかけました。

AKB48チーム8からは、佐藤七海さん(岩手県)、佐藤朱さん(宮城県)、舞木香純さん(福島県)、岡部麟さん(茨城県)、本田仁美さん(栃木県)、小栗有以さん(東京都)ら6名が参加。佐藤七海さん、佐藤朱さん、舞木さん3人は避難所での生活を振り返りその経験を語りました。

福島県出身の舞木さんは「私の住んでいた町の近くには原発があり家族と避難しました。その避難先で見たAKB48の被災地訪問ライブでたくさんの勇気や元気をもらい、私も皆さんを元気にしたいと思ってAKB48オーディションを受けようと思いました。」

「トークセッションでは、皆さんのお話を聞いて、胸が熱くなりました。東北のことをこんなに考えてくださっているんだと知って、目頭が熱くなりました。」とご自身の想いを語ってくれました。



当日参加者との集合写真



みんなで未来を

つくろう教室

参加校・団体募集中!

「みんなで未来をつくろう教室」がはじまります!

「みんなで未来をつくろう教室」は、CMをつくる体験を通して、小中高生たちが自分や地域について考え、未来をつくっていく授業プログラムです。友だちと一緒に、先生と一緒に、そしてまちの人たちと一緒にまちのいいところを探し、アイデアを持ち寄って、まちのCMをつくってみませんか?

学校の方へ 総合学習や、地域活性テーマ授業にお役立てください。
NPOや支援団体の方へ 子ども向けのイベント等に活用いただけます。

お申し込み・お問い合わせは、下記「みんなでつくろう事務局」まで。

【内容に関するお問い合わせ】

みんなでつくろう事務局

tsukuro-minnade@sec.dentsu-pr.co.jp

03-5565-2793

